

第1回タウンミーティング会議録（質疑応答部分）

会場：ミヤケン元気21 中央公民館

■ 5月29日（金）19:00～20:30 参加人数 104人

（参加者1） 市の財政・将来見通しの周知

パブリックコメント等で建設的な意見を提案している。新聞や定例記者会見で、財政調整基金が3年ほどでゼロになる、市債残高(借金)が増えるという話を見聞きした。財政は単年度予算だけでなく難しく、市職員でも財政担当でないと理解しづらい。市民の財政リテラシーも低く、周知が不十分だと不安が先行する。市の提案制度を使って意見を提案していきたい。

（市長）

市の財政は一年ごとの発表でわかりにくく、これまで先の見通しを公表する方法がなかった。県でも中期財政見直しを出している。自身が県議の頃、群馬県が貯金ゼロの予算を組んだ年があり、災害等に備え少しでも残すべきと提言した。単純計算ではゼロになるが、備えとして50億円程度は確保したい。新しいことが同じ時期に固まると大変なので、順番や必要時期を市民と共有し、先を見越して考える時間が必要と考え公表した。県内では群馬県と前橋市しか公表していない。

（参加者2） 千代田町の再開発の見直し

千代田町の再開発について。準備組合で見直しをする方向はよいが、国の補助金に加え、それを上回るほどの市税を投入することになるのでは。前のビルも立派なものを作って30年で失敗した。少子高齢化で子どもが減る中、立派な建物を維持するのは大変で、本当に必要か疑問。計画が出てから何十年も進まない状態が続いており、計画を見直さない限り実現は難しい。スピードも考えてほしい。生鮮食品が買えない状況で、商店街を利用してきた人の生活も支えられる再開発であってほしい。

（市長）

どんな建物も作って終わりではなく、使い、修繕し、いずれは解体も必要。これまで作ることがメインで、その後を考えることが少なかった。再開発は実現する方向で進めているが、町・前橋全体・市民のためになる形が大事。ゴミや公共交通同様、市民が協力し来てくれないと苦しくなる。市民や市外の人を呼べるかという視点で見直す必要がある。再開発はスズランや民間オフィス、街中の地権者と進めている。図書館を街中に移転予定で、利用者が街中に来るきっかけになると期待。将来の子どもたちに負の遺産を残さないことが大事で、皆さんと話しながら進めたい。

（参加者3）前橋市のPR・強み

昨年の大学受験の面接で「前橋市のPRをしてください」と言われたが、前橋市民なのに思いつかず悔しかった。（前橋市ではなく）群馬県の良さになってしまう。前橋市の強みを市民目線・学生目線で教えてほしい。学生は遊びに行く時、困ったらとりあえず高崎駅周辺・高崎イオンモールなどに行ってしまうことが多いので、前橋で遊べるような開発を楽しみにしている。

（市長）

前橋の良さは一つに絞りきれず、じわじわ染み出てくるものが多い。群馬の中で前橋が一番なのは農業、医療の充実（高崎より医療環境が充実し安心して過ごせる）。臨江閣など歴史・文化が根付いている。赤城山ではスノーピークがキャンプ場を指定管理し、冬の氷上ワカサギ釣りは海外の方にも人気。最近は街中で民間が新しい店を呼んだり整備したりする「前橋モデル」が貴重な取り組みと言われる。前橋公園でホテルが多く出るのもPRポイント。会場の皆さんも前橋のすごいところを学生に伝えてほしい。

（参加者4）移住・子育て環境

元々高崎に住んでいたが、前橋がいいと思い移住した。環境が良く、こども公園やこども図書館が充実している。群馬県庁の駐車場の入れ方が面白く子どもがずっと見ている。子育て・子どもの環境に感謝しており、前橋に移住して良かったというまちなしてほしい。

（市長）

総合計画を作る上で市民約50人にインタビューし、前橋の魅力を聞くと赤城山と答えた方が多かった。どこに行っても山がきれいに見えるまちで、赤城山の自然は魅力。学生には暮らしやすさを伝えるのが難しい面もある。学生・若者が「前橋のここに行けば面白い」と思える場所を作り、若い人の意見（若者向けタウンミーティング）を聞く場も作っていきたい。

（参加者5）市役所窓口対応へのお礼・財政・各種交付金の見直し

市長が変わって市役所の窓口が非常に良くなった。昨年、戸籍を何通も取る手続きに大変お世話になり、勤務時間を超過してもらい感謝している。今回、財政調整基金の残高を見せられ、この後大丈夫か心配。市の定例会で保育料の条例改定が否決された件でも財政が話題になったと思う。新しい財源は考えにくいので、どの事業を重点的にやり、今までの事業も見直す必要があるのでは。自治会への交付金や敬老祝い金なども見直す時代になったのでは。既存の予算枠の中で何が一番よいかよく

考えてほしい。

(市長)

職員を褒めていただき感謝。就任時、職員に一番大事なのは市民目線と伝えた。手続きでわかりにくい点があれば意見を寄せてほしい。財政は突然悪くなったわけではなく、もともとの予想を公表していなかっただけで、見えるようにした。蓋を開けたらお金がなくてできなかったとなるより良い。決まっていた事業の予算を使う時期が重なっただけで、先を見越して予算を作れば市役所も市民も安心につなげられる。保育料は大きなプロジェクトが多い中で簡単に軽減してよいか議会からも指摘があるが、子育て世代の負担軽減も大事との提案もあり、どういう形なら進められるか議論して少しずつ前に進めたい。敬老祝い金も貴重な意見として受け止める。

(参加者6) コンサート会場・文化施設の規模

今月、高崎芸術劇場で某有名音楽家のコンサートを聴き素晴らしかった。前橋の文化ホールは収容約1200人、高崎の芸術劇場は2000人規模でどうしても比べてしまう。前橋市内を調べるとグリーンドーム前橋がネット情報で最大収容2万人とあった。普段は競輪事業だが、有名なロックバンドや音楽家を呼べるコンサートができればもっと有意義では。

(市長)

前橋市で一番人が入るのはグリーンドーム前橋で、ミスターチルドレンが来た時は周辺道路が渋滞するほどだった。ただオーケストラやミュージカルなど舞台装置を使う芸術発表にはグリーンドーム前橋は向いていない。グリーンドームでできるイベントは今後も誘致したい。市民文化会館(約1200人規模)はしっかり修繕して音楽などを楽しめるよう活用したい。高崎芸術劇場も素晴らしいので、近い高崎市の施設を使うのもあり。一つの自治体で多くの施設を持つより、近隣自治体が施設を使い合い全体でバランスを見ることが持続可能性の面で大事。

(参加者7) 公共交通・バス路線

車がなく自転車が好きで、公共交通機関を重視している。引っ越してきた頃、前橋駅から南に向かうバスは多く、前橋南部から高崎駅に行くバスが4本ほどあったが、今は本数が減ってしまった。これから高齢社会になるので、前橋南部から高崎駅に向かうバスも含めて公共交通を充実させてほしい。

(市長)

バスの乗りやすさ・路線・時間がポイント。前橋駅から南部(南モール方面)に向かうバスは新しい計画で本数を増やす方針で、15分に1本ぐらいに増やそうと考えている。ただ高崎に行く便はまだ充実していない。公共交通の広域化として、高崎・伊

勢崎など周辺自治体との協議が大事で、高崎へスムーズに乗り換えて早く行けるようどうしたらよいか検討したい。バスと電車が好きという人が増えるとありがたい。

(参加者 8) 学校給食の質・有機野菜給食

小さい子どもを育てており、学校給食の質をさらに高めてほしい。現在の給食が子どももの成長・健康に本当に安心安全か疑問。健康への影響が指摘される食品や牛乳、農薬・遺伝子組み換え食品などの課題があると感じる。前橋で実施された有機野菜給食が全国に広がり、オーガニックビレッジ宣言や完全米飯給食、遺伝子組み換え食品不使用の市町村もある。福岡市では月 1 回牛乳を別のものに変える取り組みもあると報道があった。質問：学校給食の取り組みを市の中で話す機会を設けてもらえるか、昨年度の有機野菜を使った給食は今後も継続されるか。

(市長)

給食は子ども・保護者・調理職員・農家の期待が大きく、前橋の給食のやり方は大事。有機野菜給食は市全体ではなく、ある調理場で年 1 回有機野菜の品種を提供している。市内全体でまかなうには必要量の確保、同じ日に揃うか、農家が朝届ける搬入の負担などの課題があり、新しい調理場では前日搬入できるよう大きい冷蔵庫を作る案なども議論している。環境配慮型農業を使った給食の日を毎日でなくても続け、回数を増やしたい。子ども基本条例・子ども計画を作ったので、子ども自身が給食について考える時間も必要。小規模な意見交換の場で給食について話すこともできるので、機会の作り方を検討したい。

(参加者 9) 両毛線のダイヤ・千代田町再開発

両毛線について、10 年ほど前は前橋駅から都内直通の便が何十本もあったが今は 1 日数本。JR は収益の上がる路線は自分のもの、赤字は地方に押し付けている。市はダイヤ編成の時に一言言ってほしい。そうしないと前橋に定住する人がいなくなる。実際に運んでいるのは在来線（両毛線）なので力を入れてほしい。千代田町の再開発は何十年も前から地元の反対・非協力で潰れてきた。昔は路面電車が走り車社会でなかったから今の場所でよかったが、50~60 年前と同じ考えでは無駄。もっと駅の近くや新前橋駅前を開発した方が通勤者も便利で定住者が増えるのでは。

(市長)

両毛線は本数や直通が増えれば嬉しいが、JR と話すと「乗ってくれないと増やせない」と言われる。特急も乗る人が少なくなって無くなった経緯があり、みんなで電車に乗り「増やしてほしい」と言えるぐらいにならないと難しい。願いはしているが「そう言っても乗らないでしょう」と言われてしまう。再開発は何年も計画が出ては白紙になってきたが、今回は街中の皆さんも地権者も、見直して形にしようとして進めてきたもの。駅前や新前橋もマンションが増え変わってくるが、街中も前橋の顔なので、

長い時間をかけ市・地権者・市民が話し合い今の計画を進めてきた。引き継いだものをやめるとは思わず、どう着地させるかが政治の大事なところ。街中をみんなが大事に思える場所にする視点で再開発を進めたい。電車に乗ってもらうには駅周りを賑やかにすることも大事で、その視点も重視したい。

■ 5月30日（土） 10:30-12:00 参加人数 100人

（参加者1）小学校の統廃合・芸術文化施設・区画整理

中川小学校の統廃合に反対し存続を求める。学校は地域の運動会や老人会など地域活動の場であり、交通量も多く子どもの遠距離通学は危険。中川小には歴史のある木のタブノキ（タマグス）もあり残してほしい。あわせて三河町一丁目の芸術文化施設もあるが、市民文化会館・県民会館・テルサ等が休館中で、文化の町として街なかを豊かにしてほしい。三河町二丁目の区画整理が長年進まず更地のままなので、着手した区域は早くきちんと整備してほしい。

（市長）

小規模校の統廃合（適正配置）は市全体で進めている。一学年一クラスの小規模校が増えており、6年後の入学児童は今より約500人減る見込み。一番大事なのは子どもの教育環境で、地域から通える仕組みをつくり子どもを残す視点で、地元の意見を聞きながら考えたい。芸術文化施設は雰囲気がよく貸出も可能なので周知したい。区画整理は市内八〜九か所で同時進行中だが、国の予算が災害復旧等に回り思うように進まない面がある。必要性の高い区域を優先的に進める。

（参加者2）赤城山の観光振興

赤城山は前橋にとって大きな観光資源だが、富士見町住民としても合併後十年以上経っても活かしきれていない。サイクリングロードの整備のほか、ビジターセンター北側に約300万円かけてコスモスを植えたが鹿に食べられる被害があった。今は糸井重里氏ゆかりの施設やキャンプ場整備などで注目が高まっている。使われていない施設や赤城少年自然の家などをこどもの居場所に活用し、足湯の設置や「名月赤城山」など全国に知られる歌の活用も検討してほしい。

（市長）

赤城山は全国的にも注目されており、スノーピークのキャンプ場や新しい店舗などで来訪者が増えている。テレビやSNSで話題になると実際に訪れる人が多い。鹿の食害は教えてもらい感謝。自然環境と観光の両立は難しいテーマで、地域の皆さんと環境を大切にしながら進めたい。富士見の道の駅・温泉もお勧め。前橋は国際スローシ

ティ連盟に約八年前から加盟しており（日本では赤城南麓エリアと宮城県気仙沼市の二地域のみ）、皆さんにも素晴らしい地域として広めてほしい。

（参加者3）総合計画の分かりやすさ（全体俯瞰図の要望）

前橋市総合計画について、六つの柱がそれぞれどの範囲をカバーし互いに重なっていないのかが、全部読まないと分かりにくい。各施策を前橋単独で行うのか、県・国・他市と協力するのも不明。次に第八次総合計画を作るなら、表紙の裏などに全体を俯瞰できる関係図（全体俯瞰図）を追加してほしい。

（市長）

行政の計画は分かりにくいという課題がある。第八次総合計画を作る際にはタウンミーティング等でこうした意見を多くいただきたい。柱の立て方や整理の仕方も含め、より分かりやすい計画を市民と一緒に作りたい。ワークショップへの参加も歓迎。

（参加者4）子育て支援・少子化対策

こども2人が小規模校に通う。50年以上の歴史ある小学校の小規模校としての良さを伝えたい。こどもが減っているのが根本問題で、市長のこども関連施策は素晴らしい。こどもをいかに増やし生産年齢人口を増やすかが重要。有名な移住先のPRなども検討し、最終的にこどもが増える政策を進めてほしい。出張先で子育て支援の好事例も見た。

（市長）

人口規模と推計を見ながらまちづくりを進める必要があるが、何もしなければ人は減る。特に子育て世代は近隣自治体と保育料無償化などで競争になっている。前橋に残ってもらうための子育て支援を考えたい。保育料の軽減も全額無償化には至らないが少しずつ進めたい。小学校の適正規模は全市で議論中で、エリアや通学距離も踏まえる必要がある。一学年5～6人では教育が難しい面もあり、どういう形がよいか地域と一緒に考えたい。

（参加者5）ガソリン・エネルギーの備蓄、国への要望

中東情勢でガソリンが安定的に入らない状況があり、今後ガソリンやエンジンオイルが不足すると移動や教習に支障が出る不安がある。前橋市としてガソリンの備蓄など対策は足りているのか。今後、国（総理等）に市長から要望を出す考えはあるか。

（市長）

ガソリン価格は国の補助の有無で変動があり、エネルギー問題は大きな課題。原油はタンカーで運ばれるもので市町村単位での確保は難しいが、国にしっかり対策を求める。6月の全国市長会で全国共通の話題として国へ要望を出す予定で、全国知事会・

市町村長会からも同様に声を上げている。公共交通の利用でガソリン負担を減らすことも考えたい。

（参加者6）公共交通

市内で動く場合は自家用車が必要であるが、車がない人は公共交通を利用することになる。もっと車がない方へのサポートをお願いしたい。

（市長）

地方の公共交通は全国的に路線が減る中、前橋はバス路線をなるべく減らさず利用者も徐々に増えている。みんなで協力して公共交通を維持したい。そのためには乗ってもらう必要があり、乗りやすさや必要な路線について意見を聞きながら模索していきたい。

【特別ゲスト】牛久市長のあいさつ

牛久市長による牛久市 PR と前橋市タウンミーティング視察のあいさつ。牛久大仏（ブロンズ立像・ギネス認定）、日本のワイン発祥の地、牛久沼（うな井発祥）、あんばんの木村屋創業者等を紹介。「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」2026版発表の表彰式で小川市長と一緒したことをきっかけに今回の視察に来訪。前橋のフランクな対話姿勢や市民の関心の高さに好印象。住みごこちランキングで前橋が北関東140自治体中10位と紹介。牛久市はアニメ「ラブライブ！スーパースター！」の舞台であり、「前橋ウィッチーズ」と同じく聖地化している。公共交通はコミュニティバスで補完しており、積極利用を勧めたいと述べた。

（参加者7）待機児童・保育園

15年前に出産後、仕事が決まり保育園に預けようとしたら定員がいっぱいで待機児童問題に焦った記憶がある。資料で出生数が下がっているとあったが、現在の待機児童の問題は改善しているか。

（市長）

前橋市は以前から待機児童は少なく、現在3歳以上で入れない待機児童は基本的にいない。ただ第一希望に入れない場合はある。こどもが減り保育園も定員調整が進む一方、0歳・1歳の低年齢児を預かる場所が少なく、その整備は今後の課題。一時預かり施設も人気で日曜開所も試行する。保育園に限らずこどもの居場所全体を考えている。

（参加者8）老人会への補助金 （市老連を通さない直接支援の要望）

地元の老人会が昨年、市老連（市老人クラブ連合会）を退会し補助金がなくなり活動に支障がある。市老連・県老連は戦後制度で制度疲労・形式的との印象がある。市補

助金は市老連経由で各单位老人会に入る仕組みだが、市老連を通さず直接支援を受けられる形にしてほしい。高崎市では旅行補助の報道もあった。地域の見守り会議には補助があるようだが、実際に活動している老人会にも支援を検討してほしい。

(市長)

老人会は市内で減少・休止・解散が出ており、市老連に加盟していない地域もある。自治会組織のあり方も多様化している。市からは一括交付金として自治会に支出しているが、その中身や一番良いやり方は、意見を出し合って考え直す必要がある。貴重な意見として参考にしたい。

(参加者9) テルサの存続と市街地再開発

テルサ存続を求める会代表。1年前(6月5日)に787名の署名を市民とともに副市長・産業政策部長へ提出した。テルサは年間42万人が利用し県民会館より多く、帰りに街なかに寄るなどにぎわいに貢献。歌声喫茶も開かれた文化的遺産で、3年間の閉館により周辺商店の客が減り生活が成り立たない人も多い。委託団体募集の報道で複数社が応募したが、市の規格に合わないとして取り消されたのはなぜか。千代田町再開発には市が200億円超を投入する一方、テルサは3年間放置されており許せない。使えるところから使わせ、強引にでも早期稼働させるのが所有者である市の責任。千代田町再開発とテルサを一体で前橋を活性化させる案を打ち上げてほしい。

(市長)

テルサは令和5年に閉館し3年目。ホテル・宴会場・フィットネス等を税金で運営し毎年赤字で、本来市が運営すべきでないとして監査から指摘され、民間譲渡を長く検討してきた。過去3回公募し、1回目は辞退、2回目は3社応募も優先交渉権者なし、商工会議所の活用検討も採算困難で2024年夏に解体方針を出した。存続要望を受け昨年度に3回目を公募し、四社のうち最終一社が残ったが、選考委員(会計専門家・中小企業診断士等)の審査の結果、優先交渉権者にできなかった(市長は審査に不参加)。築30年で配管・設備の全面更新が必要、ホールは吊り天井で改修しないと危険、全面改修に10数億~数10億円かかる。審査は非公表で業者が理由公開を望まないため詳細は伝えられない。再開発で公共図書館を街なかに移すなど街に人が集まる状況をつくり、地域と今後のつながりを考えたい。

以上